

農学部

Faculty of Agriculture

地球は愛と農学で回っている。

環境問題、資源・エネルギー、生命、食料…。
私たちが直面している問題は、どれも農学が深く関わっている。
この美しい星を守るために、人類の未来と幸福を支えるために、
宮崎の恵まれた自然環境の中で、農学と真剣に向き合える。



農学部長

酒井 正博

農学部は、グローバルな植物生産の知識と開発力・指導力を身に付けた人材を育成する植物生産環境科学科、森林がもたらす環境の保全と資源の利活用を学ぶ森林緑地環境科学科、21世紀の生命・食料・環境問題解決を目指す応用生物科学科、柔軟な視点で海の生物や環境の未来を考える人材を育成する海洋生物環境学科、家畜・飼料生産と草地の両視点から学ぶ畜産草地科学科および最先端の教育研究環境で高い実践力を身に付けた獣医師を育成する獣医科学科の6つの学科より構成されており、農学の全ての教育研究分野を網羅しています。キャンパス内の広大な農場、西日本最大級の牧場、杉や独特の照葉樹からなる演習林、水産実験所、動物病院があり、実習などの実践的な教育を行っています。さらに、国立大学では極めて珍しい農業博物館があり、農業に関する数多くの資料を展示しています。

このような恵まれた環境の中で、日本が世界に誇る農学分野の最先端研究を自ら探究し、世界に向けて成果を発信するとともに、成長産業である農林水産業に貢献する人材として育つことを期待しています。

■農学部 各学科

植物生産環境科学科

地球に優しく安全・安心な食料生産を目指す
食の安全・安心を追求し、グローバルな植物生産の知識と開発力・指導力を有する人材を育てる。

P43

森林緑地環境科学科

みどりの恩恵を科学する
自然環境保全と安全で快適な生活環境の形成、森林緑地の恩恵(機能)の解明に基づき、資源の利活用技術を確立。

P45

応用生物科学科

化学をツールに「生命・食料・環境」を科学する
地球規模で人類が直面すると予測される生命・食料・環境問題に応えるための人材を育てる。

P47

海洋生物環境学科

微生物から海獣まで、分子から環境まで
太陽系で唯一、水に恵まれた地球。その海の生物や環境の未来を、柔軟な視点で考える。

P49

畜産草地科学科

家畜と草地の両視点から「考える」教育
畜産の知識を生かし、飼料の自給率向上をはかりながら、飼料資源をリサイクルする科学を確立する。

P51

獣医科学科

最先端の教育・研究環境で高い実践力を習得
専門科目ごとに設置されている11講座と附属動物病院が、他学科と協力しながら、獣医学を实践。

P53

■教育理念

農学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得させ、それらに関する問題解決を通して地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを理念とする。

■教育目標

- 幅広い教養と食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識に加え、農学分野における高度な知識及び技術を用いて社会のさまざまな課題を探索し解決できる能力を養成する。
- フィールドにおける実践教育を推進し、農学分野において、地域と国際社会に貢献できる人材を育成する。
- 専門技術者としての倫理観、情報収集能力、文章表現能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める教育を行う。

■アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

農学部では、その教育理念にもとづいた教育目標を達成するために、「知識・理解」、「思考力」、「表現力」、「主体性」、「協調性」、「学問への関心」を有する人材を求めています。このために、一般、推薦、帰国子女、社会人、留学生、編入学といった多様な入試を実施し、それぞれの入試においては、客観的で透明性のある方法によって入学者を公平に選抜します。

■ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

農学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士(農学)の学位を与える。

- 人間性・社会性・国際性:社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
- 主体的に学ぶ力:自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
- コミュニケーション能力:相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
- 課題発見・解決力:課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
- 知識・技能:学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能(実践力)を活用できる。

全学科に共通する知識・技能

- 文化、社会、自然、地域の理解:人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
- 農学に関する基礎知識:農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。

植物生産環境科学科

- 植物生産に関する基礎的・応用的知識:植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 生産環境に関する基礎的・応用的知識:生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識:環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
- 植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力:植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を有し、社会で活用できる。

森林緑地環境科学科

- 森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力:森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
- 自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識:自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
- 樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識:樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
- 多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力:自然環境と生物資源利用の調和を旨とした森林緑地管理を計画・実行できる。
- 環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力:環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる。

応用生物科学科

- 数学及び自然科学に関する基礎知識:数学及び化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
- 応用生物学に関する知識:応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品科学・動物資源科学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
- 技術者の社会的責任に関する理解:応用生物学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
- 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力:応用生物学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

海洋生物環境科学科

- 水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力:水圏(生物と環境)に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
- 環境と食糧生産の諸問題に関する分析力:環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
- 環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力:分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
- 専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力:専門分野における地域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。

畜産草地科学科

- 草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能:草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 家畜の基礎的・応用的知識・技能:家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 資源・環境の基礎的・応用的知識・技能:資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能:食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
- 専門分野に関する国際性と課題解決能力:専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。

獣医学科

- 獣医専門知識:獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
- 獣医的倫理観:獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
- 獣医的応用・実践・開拓力:獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
- 地域・国際社会への貢献能力:獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。

■施設紹介



木花フィールド(農場)



田野フィールド(演習林)



住吉フィールド(牧場)



延岡フィールド(水産実験所)



附属動物病院



附属農業博物館

植物生産環境科学科

Department of Agricultural and Environmental Sciences

地球の生態系・自然環境と農業生産との調和を図るための環境保全型農業に関する教育と研究を推進しています。また、安全で高品質な農産物を効率よく生産するための基礎知識や栽培技術を身に付けるためのカリキュラムと、植物生産と生産環境に関連した専門知識を国際的視野から深く学ぶためのカリキュラムを提供し、地域・世界の農業に貢献できる人材の養成を目指しています。

植物にすぐに触れられる恵まれた環境で、学び方は無限大。

植物生産環境科学科 3年

白石麗依奈 Reina Shiraiishi

熊本県 八代高校出身

本学科の良い所は、大学に隣接して木花フィールドがあるため、自分で育てて収穫するなど植物のことを体で体験できることです。宮崎は農業が盛んな県。大学のフィールドだけでなく、さまざまな農家と交流する機会もあります。学外体験実習では、夏休みを利用して農家に2週間住み込みしました。肥料まきや定植、収穫など一通りの仕事をし、農業の大変さを実感しました。3年生からは病理学の研究をしたいと思っています。植物の病気のことを学び、地元で農業関係の仕事に就き、植物のお医者さんのような存在になりたいと思っています。本学科は、3年生時に成績上位者が海外留学するチャンスもあり、私も行けるよう狙っています。いろいろな可能性や学び方が広がっていますよ。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

植物生産環境科学科では、農学に関する基礎知識、植物生産、生産環境、並びに環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識、専門分野に関する国際的視点、社会貢献力及び指導力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 安全・高品質な農・園芸作物の安定供給に対して熱意を持って取り組み、自然現象に対する強い知的的好奇心と自然環境に配慮した農業生産に対する関心を有する人
- 実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科の基礎的学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を地域・社会に還元することができ、国際的な視野と責任感を有する人

Message



世界・日本・地域の農作物を病害から守り、植物生産の強化・生産環境の保全に役立てる。

植物生産環境科学科 教授 竹下 稔
Minoru Takeshita

本学科は、農学を基本とした植物生産、生産環境、および環境調和型農業に関する専門的知識と国際的視野を身に付けた人材育成を目標に掲げています。また、GAP(農業生産工程管理)教育では全国的に高い評価を得ており、短期海外インターンシップを実施するグローバルアグリ体験講座では、農業分野における国際感覚の醸成に努めています。そのような本学科の活発な研究・教育活動の中で、私は植物病理学研究分野を担当しています。本研究分野では、特に植物病原ウイルスが引き起こす病害の防除に焦点を当てており、植物ウイルス感染に対する宿主防御応答に関する最先端の基礎研究や地域貢献を重視したウイルス病害の遺伝子診断法開発等を行っています。本学科には作物学、園芸学、応用昆虫学、植物生理学等の植物環境領域と農政経済学、農業工学等の生産環境領域に関する魅力的な研究分野が揃っています。是非、植物生産環境科学科に来て下さい。

KOKOCHU
ココに
注目!

『グローバルアグリ体験講座』で海外の農業を学ぶ!

本学科の目玉実習「グローバルアグリ体験講座」では、タイの大学や企業での授業・実習を通して海外の農業を勉強することが出来ます。本体験講座を受講すると、タイに約一週間行って勉強・実習することになります。現地では、カセサート大学と本学科教員による英語講義や企業、政府機関の見学などを行います。また、タイの大学生との交流や文化遺産の見学など、国際的な視野を持つために不可欠なプログラムも組み込まれています。これまでに、本学科の学生60名を派遣してきました。この講義を受講した学生の多くが「海外で勉強して、自分の価値観が変わった」

という感想を持っており、海外の農業に関する知識の習得だけでなく人間的にも大きく成長して帰って来ます。



■卒業後の主な進路

公務員、教員、試験研究機関、農業団体、醸造業、種苗会社、農業法人、食品製造加工業、食品流通業、外食産業、農薬医薬産業、緑化産業、肥料会社、天敵関連企業、農業機械関連産業、農産施設関連産業、国際協力機構(JICA)、金融業、マスコミ、自営(就農)、大学院進学 他

■取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生管理者^{※3} ●食品衛生監視員^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 自然再生士補^{※5}
- JGAP指導員^{※6}

- ※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※4 所定の科目の単位を修得し、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。
- ※5 資格取得に関連する授業を受けることができるので、資格取得に有利になります。在学中に受験し、資格を得ることができます。

森林緑地環境科学科

Department of Forest and Environmental Sciences

私たちの身近に存在する森林・緑地は、人類がこの地球上で生存し続けるために必要な資源を生産する場であるとともに、快適で安全な生活を過ごすための環境を守るうえで欠くことのできない存在です。本学科では森林や農山村・都市・海岸域を含めた緑地の機能を探求し、持続的な農林業、豊かな自然環境、そして快適な生活環境との調和を目指した教育研究を行います。

植物はもちろん、林業や森林などの知識を広げてやりたいことを模索中。

森林緑地環境科学科 4年

中山葉月 Hazuki Nakayama

福岡県 北筑高校出身

学科名の通り森林や緑地、自然環境が学べるのはもちろん、国土管理や砂防、治水などの防災関係や農業土木まで幅広く学べるのが本学科です。植物が好きで、高校時代に樹木医の人と話す機会があったから、造園業者や樹木医のような仕事がしたいと思ったのが志望動機です。入学して植物の知識が広がっただけでなく、多様な林業に関する講義を受けて興味を持ちました。今は造林学の研究室に入り、林業を始める際のコスト削減の研究をしています。苗木は雑草よりも生育が遅いと負けてしまう。雑草の種類によって苗木の成長がどう変化するかなどを研究しています。林業を研究していますが、造園についても学んでみたい。先々は緑地や造園に関する知識を深めるため、大学院に進みたいです。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

森林緑地環境科学科では、森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力、自然環境や国土保全及び水資源利用に関する基礎的・応用的知識、樹木・菌類及び非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識、多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力、環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 森林・緑地の環境保全と生態系の修復、森林資源や水資源の循環的・安定的利用に対して熱意を持って取り組み、森林・緑地に関連する自然科学と社会現象に幅広い興味や関心を有し、実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元する情熱と責任感を持つ人材

Message



“きのこ”の秘密を一緒に探っていきましょう!

森林緑地環境科学科 助教 原田 栄津子
Etsuko Harada

森林緑地環境科学科は、森林の維持に関わる全ての生物(植物・動物・菌類)を大きな視点で学ぶことができる学科です。このため、地球全体の生態系を通して持続可能な社会を考えたいという学生にはとても良い環境だと感じています。私が担当する“きのこ学”は、全国の大学でも珍しいきのこに着目した学問です。きのこは、分解者として木材を分解する唯一の生物であり、地球の生態系を維持するためにも重要な役割を持っていますが、それと同時に、我々人間にとっては、美味しく健康を維持するためにも欠かせない食材です。このような多彩な能力を持つきのこを社会に役立てるために、基礎研究と応用研究を行っています。光るきのこ、虫と共生するきのこ、香るきのこなど様々な面白いきのこの秘密を一緒に研究してみませんか?

KOKOCHU
ココに
注目!

「就職力の高さの秘訣は “学科の充実したサポート体制”にあり」

森林緑地環境科学科では、公務員・民間企業問わず、就職支援に力を入れています。2019年度も、林野庁・各県の林業職・農業土木職を中心に15名が公務員試験に合格しました。森林林業や木材、農業土木・防災に関連する民間企業にも多数就職が決まっています。

本学科のカリキュラムは、林業、農業土木分野いずれの専門試験にも対応しているのが特徴であり、学科の講義を学べば自然と専門知識が身に付き、公務員や関連企業の就職に繋がるので、短期間の試験対策でも十分に合格が可能になります。加えて3年生になると配属先の研究室の教員が親身になって相談に応じるので早期に就職先を意識するようになり、早めの就職対策に取り掛

かることができます。さらに4年生による公務員合格者報告会や卒業生である現役公務員による説明会、鹿児島大学と合同で開催する「林業・木材産業就職説明会」などの様々なサポート体制が、本学科の就職力の秘訣になっています。



■卒業後の主な進路

公務員(農水省、林野庁、県、市町村など)、教員、林業、木材産業、農林業関連団体(森林組合系、土地改良事業団、JA系など)、環境・緑化・農業土木関連企業(建設コンサルタント、造園・建設会社)、大学院進学、その他

■取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 普及指導員^{※3} ● 林業普及指導員^{※3}
- 自然再生士補^{※4} ● 樹木医補^{※4} ● 測量士補^{※4}
- 森林情報士2級^{※5}

- ※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※4 所定の科目の単位を修得し、関係機関に申請すると、資格を得ることができます。
- ※5 所定の科目の単位を修得し、別途条件を満たして関係機関に申請すると、資格を得ることができます。

応用生物科学科

Department of Biochemistry and Applied Biosciences

バイオサイエンス分野の最先端技術を用いた生物の機能解明と活用、食品の機能と利用法及び安全性について探求しています。その研究対象は動物、植物、微生物、これらを活用した食品ならびにそれらを育む土壌・生態系にまで及び、最先端のバイオテクノロジーを駆使した研究を通じて、生命・食料・環境に関する幅広い知識を学ぶことができます。

筋トレに夢中になったことから、体と栄養の関わりや植物全般に関心。

応用生物科学科 3年

篠原涼乃 Suzuno Shinohara

宮城県 宮崎東高校出身

化学が得意だったことで、高校の先生から本学科を勧められました。そして同じ頃、筋トレに夢中になり、筋肉と食事・栄養の関係を調べていくうちに、自分で研究してみたいと思いました。本学科の授業では、食品だけでなく植物全般を扱い、加えて土壌、微生物、魚、畜産分野など多岐にわたっています。当初は食品を学びたいと思っていましたが、土壌や微生物にも関心が向いています。講義では「キンカンたまま」の種をなくすには?という今の研究の話も織り交ぜてくれ、興味が深まります。本学では「宮大探検隊」という地域と交流する地域デザイン棟の企画などがあり、旅行を楽しみながら県内の地方都市への提案をすることにも参加。専門だけでなく、大学が幅広い活動を企画しているので、充実した大学生活をおう歌できます。

Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

応用生物科学科では、農学に関する基礎知識、数学及び自然科学に関する基礎知識、応用生物科学に関する知識、技術者の社会的責任、制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- バイオサイエンス分野の先端技術の獲得、食品機能の探求や環境保全に対して熱意を持って取り組み、動植物や微生物の機能や利用に対する深い関心を有し、実験結果や観察内容を深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる化学や生物、英語に関する学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を応用生物科学分野の技術者として社会に還元することのできる人材

Message



広い視野で物事を捉える力を養おう。

応用生物科学科 准教授 平野 智也
Tomonari Hirano

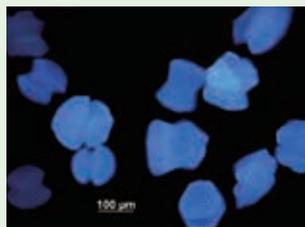
生命・食料・環境に関する複雑な問題を解決するためには、様々な角度から問題を分析する必要があります。応用生物科学科では、幅広い学問分野の知識を学ぶことができる教育プログラムが組まれていますので、問題解決に必要な広い視野で物事を見る力が養われます。私は、「新しい植物を創る」ことを目指して、植物の隠れた力を引き出す研究を進めています。現在では、植物に関する知識に加えて、分子生物学や情報科学、物理学などの知識も必要になってきています。一人でもできることにも限界がありますので、自らの視野を広げると同時に、幅広い専門分野の研究者と共同で課題に取り組むこと、つまり人との繋がりも重要だと考えています。皆さんも本学科で幅広い知識・技術を身に付けて、我々が直面している課題を一緒に解決に導きましょう。



応生発! 最先端研究の紹介

世界初! 好熱性細菌のバイオミネラリゼーション

高温にて有機性廃棄物を酸に変換する微生物を探していたところ、細胞外に美しい形をした結晶を形成する細菌が偶然見つかりました。この細菌は60℃で活発になり、胃酸とカルシウムのみからカルサイトと呼ばれる無機結晶を作ります。生物が鉱物を形成することをバイオミネラリゼーションといいますが、この細菌はなんのためにそのようなことをしているのか明らかにしようとしています。地球深部の高温下では微生物起原の石灰岩が作られているのかもしれないですね。またこのカルサイトには蛍光特性があるので希土類を使わない蛍光体としての応用が期待されています。



カルサイトが蛍光を発する様子

根粒菌の力をダイズ生産へ応用する!

作物生産のための窒素肥料は欠かせないものですが、マメ科植物と根粒菌は大気窒素を利用して生育することができます。共生窒素固定として有名なこの生物機能を農業生産に応用するために、ダイズの性質と共生窒素固定細菌の分子生態研究を行っています。近年、ダイズと根粒菌の親和性を支配する宿主遺伝子や根粒菌の地理的分布が明らかとなりました。これらの研究を通じて生物の生態機能をダイズ生産へ応用できるようになりつつあります。



根粒菌がダイズに感染する様子

卒業後の主な進路

食品製造業、流通業、醸造業、医療・製薬関連企業、化学工業、環境化学関連企業、農業関連団体、公務員、教員、大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生監視員^{※3}
- 食品衛生管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 毒物劇物取扱責任者^{※5}

- ※1 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※5 卒業後、勤務先の毒物劇物を取り扱う製造所、営業所または店舗で必要とされる場合に、この資格をもつことができます(受験等の必要はありません)。

海洋生物環境学科

Department of Marine Biology and Environmental Sciences

宇宙の中で地球を他の惑星から分けた出来事は海の誕生でした。海洋は地球環境の恒常性を担い、生物・非生物の未利用資源に満ちています。海洋を含む水圏環境について深く学び、その生物の多様性と利活用を理解・修得することによって、広く人類の未来について思索し、地域ばかりでなく、国際社会に貢献できる人材育成を目指します。

フィールドはすぐ近く。海の生物について環境まで含めて幅広く学べる。

海洋生物環境学科 4年

高木 ゆり Yuri Takagi

宮崎県 都城西高校出身

もともと深海魚が好きで、海洋生物のことが学べる学科を探したら本学を見つけました。乗船実習や浅海実習など、大学とフィールドが近い実習が多いです。採集した海洋生物で自分たちの水族館を作るという実習もありました。大学から海まで車で15分程度の距離です。講義終了後にちょっと足を延ばして釣りや潮遊びなど、学んだことをすぐ見に行ける環境の良さは抜群です。途上国の養殖業の活性化に今は興味が向いており、成績上位学生には補助金がある留学も挑戦します。希望者のみの韓国研修もあり、そこでは研究内容を英語で発表する機会にも恵まれました。語学を学び世界に出る大切さも知りましたし、自分次第でいろいろなチャンスをつかめる場所です。



Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

海洋生物環境学科では、農学に関する基礎知識、水圏に関する専門的基礎知識と専門的知識を応用できる能力、環境と食糧生産の諸問題に関する分析力、環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する力、地域社会や国際社会で活躍できる能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 海洋生物や水圏環境の保全、水域生物の生産・利活用、水族の生理機能に深い興味を有し、海洋環境と生物生産の諸問題の解決に熱意をもって取り組み、実験や観察において深く考察し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や自然科学に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる人材

**あらゆる方向から海と生命の謎を
解き明かす！海洋生物環境学科。**

海洋生物環境学科 准教授 **村瀬 敦宣**
Atsunobu Murase

海洋生物環境学科は、十数名の教員で構成される、比較的コンパクトな学科である一方で、海洋生物の生態、生理、病理、および成分等、多分野にわたって研究を行っています。そのため、野外調査から食品成分分析まで、様々な海洋生物の理解・応用に関するカリキュラムや卒業研究に取り組むことができます。私は生態学を専門としており、アユやスズキ類など、海辺で生活する魚の生息に適した環境の策定を行っておりますが、生理学分野の教員は、海水と淡水で生きることのできる魚の生理機構の解明、これを応用した養殖技術の開発を行っています。生化学の分野では、私たちが普段目にする魚介類の栄養成分を調べ、高品質の食材分析への貢献や、海洋生物由来のバイオ燃料の開発も行っており、まさに海と生命のあらゆる側面が学べる学科となっています。



Message



プラスチック その正体は“ミドリムシ”！

水たまりや水田でよく見られる0.1mm以下の単細胞生物ミドリムシ。本学科の林雅弘先生と産業技術総合研究所が共同研究を行い、この度、ミドリムシを主な原料としたバイオプラスチックの開発に成功しました。このプラスチックは、ミドリムシが体内で作出した物質に、カシューナッツの殻から取り出した成分を加えて合成されたもので、成分の約70%が植物性のためにこれまでのプラスチックより製造の際に排出される二酸化炭素が削減できるとされています。また、素材としての性質

も、加工性がこれまでのプラスチックと同レベル、耐熱性はこれまでのもの以上とのことです。実用化にはまだ課題があるようですが、この環境に優しいバイオプラスチックが近い将来、身の回りで普通に使われるようになることを期待しています。



卒業後の主な進路

水産物・食品・飼料製造流通関連企業、漁運・漁協等団体、船舶会社、医薬品関連企業、水族館・博物館・海洋観光産業、公務員、教員、環境アセス・コンサルタント、試験・研究所、大学院進学 他

取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(水産、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生監視員^{※3}
- 食品衛生管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- エマージェンシーファーストレスポンドラー^{※5}
- 潜水士^{※5}

※1 別に定める教育職員免許法の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
 ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
 ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
 ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
 ※5 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので、受験に有利になります。在学中に受験し、資格を得ることができます。

畜産草地科学科

Department of Animal and Grassland Sciences

全国から動植物に興味のある学生が集まり、自給飼料に立脚した家畜生産や、安全で美味しい畜産物を食卓に提供するための研究を行っています。対象となる分野は幅広く、野生生物・環境保全の場としての草地生態、遺伝資源利用、地球環境の保全、フードチェーンにおける衛生管理等、多岐にわたります。学んだことは実験動物や展示動物の管理にも応用できるでしょう。畜産と草地の両方の視点を身につけて、将来に活かしたい人を歓迎します。

輝いて見えた宮崎牛の本場で、牛に関わる仕事に就きたい。

畜産草地科学科 3年

松浦千聖 Chisato Matsuura

大阪府 大阪府立農芸高校出身

宮城県で開催された全国和牛能力共進会で、学生の審査競技に代表として参加しました。そのときに見た宮崎牛が輝いて見えて…。宮崎県勢の熱意や牛の立ち姿に感動し、牛やその周辺のこと、草地について学べる本学を志望しました。大学から少し離れてはいますが、住吉フィールドで牛や豚の実習ができますし、大学周辺にある農家で研修もできるなど学ぶ環境に恵まれています。また、口蹄疫のときに対応した職員から当時の体験を聞くことができるのは、ここしかできないことです。豚を飼養管理するサークル“Be-Corns! (ベーコンズ)”にも参加していますが、専門以外の分野も学ぶ機会が豊富。牧場を持ち、宮崎らしいエコフィードを開発したいなど、今から夢がふくらんでいます。



Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

アドミッション・ポリシー

畜産草地科学科では、農学に関する基礎知識、草地・飼料、家畜、資源・環境及び食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能、専門分野に関する国際性と課題解決能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

- 資源循環、環境の保全、家畜の福祉などに配慮した持続的な畜産業の構築に対して熱意を持って取り組み、動植物に対する幅広い興味や関心を有し、実験や観察において深く考察する能力を有し、その結果を表現する力、大学での学修の基盤となる幅広い知識や生物、化学に関する基礎学力を有する人
- 学修を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会の一員として地域・世界に還元することのできる資質を有する人材

畜産・草地の将来を担いたい！ 世界に広げたい！君たちへ。

畜産草地科学科 講師 石垣 元気
Genki Ishigaki

畜産草地科学科では家畜生産に必要な飼料作物や牧草の生産、飼養管理、草地生態、環境保全や遺伝資源管理および利用、野生生物、フードチェーンにおける衛生管理など多くの事を学び、研究しています。

また本学科では、西日本最大級の大学附属農場・住吉フィールドも活用し、教育・研究を行っています。このフィールドでは、放牧も活用して100%の粗飼料自給を行い、和牛繁殖・子牛育成・肥育及び酪農・乳加工施設を持つ他、養豚も行っています。

私は暖地型イネ科牧草の育種利用に関する研究を通じて、西南暖地での自給粗飼料の生産向上および、海外からの濃厚飼料の輸入依存の脱却を目指しています。

日本の畜産・草地の将来を担いたい、世界に広げたいと熱い志を持つような頼もしい学生の皆さんと学んでいけることを楽しみにしています。



Message

KOKOCHU
ココに
注目!

動物に関わる産業界へ貢献できる 人材の育成(実践教育)!

2018年4月から、畜産草地科学科の3、4年生を対象に、産業動物コンサルタント育成プログラム(ICEプロ)を開講しました。家畜生産の拡大と生産性の向上を図り、畜産物の生産加工・流通・販売までをトータルにコンサルタントすることができる人材の育成を目指します。このプログラムでは、家畜飼養管理学、産業動物経営



学、畜産簿記学などに加え、西日本最大級の大学附属農場(住吉フィールド)を拠点とした草地・飼料作物管理、情報処理、家畜審査登録などの様々な実習・演習を行います。さらに、研究機関、畜産関係団体、生産者など、動物に関わる実際の業務の現場において、短期(3年生、2週間程度)、長期(4年生、2-3か月)の体験型の研修を行い、コンサルタントに必要な知識・技能を身につけることができます。



■卒業後の主な進路

公務員、農業関係団体、試験・研究所、飼料・種苗会社、畜産食品加工・流通、畜産業(牧場)、草地畜産コントラクター、緑地・緑化産業、環境アセス・コンサルタント、教員、動物園、大学院進学 他

■取得可能な免許、資格

- 高等学校教諭一種普通免許状(農業、理科)^{※1}
- 学芸員^{※2}
- 食品衛生管理者^{※3}
- 飼料製造管理者^{※3}
- 普及指導員^{※4}
- 家畜人工授精師^{※5}
- 実験動物一級技術者^{※6}
- 食品衛生監視員^{※3}

- ※1 別に定める教育職員免許法の科目の所要単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請する必要があります。
- ※2 所定の単位を修得し、申請すると、「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。
- ※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。
- ※4 資格取得に必要な関連の授業を受けることができるので受験に有利になります。なお、資格試験を受験するには大学卒業後4年以上の実務経験が必要です。
- ※5 所定の科目の単位を修得し、その他所定の要件を満たした人は卒業後に資格を得ることができます。
- ※6 所定の科目の単位を修得すれば、4年次に受験することができます。学科および実施の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物一級技術者の資格を得ることができます。

獣医学科

Department of Veterinary Sciences

獣医師国家試験に対応する獣医学教育を基本として、動物の疾患の予防・治療に関わる獣医師、動物と人の共通感染症の防御など人や動物の健康・福祉に貢献する獣医師を養成します。なかでも、南九州の特色である産業動物獣医師の養成に力を入れています。また、平成22年度にはわが国で初めて医学と獣医学が融合した大学院(医学獣医学総合研究科)が設置され、先進的な獣医療を実施する高度獣医師育成コースや国際的に活躍できる研究者育成コースへの進学が可能です。

海を越えて来る病気もあるからこそ、
海外と連携して活躍できる獣医師に。

獣医学科 5年

川口虹穂 Nijiho Kawaguchi

愛知県 南山高校女子部出身

獣医師は犬猫のようなペットだけでなく、野生動物にも仕事によっては関わると知って目指しました。宮崎は畜産県です。そのため本大学では小動物だけでなく大動物についても深く学べます。また、1学年30人と少人数のため、同学年はもちろん先輩、後輩、先生とのつながりが深いです。敷地が広く、畜舎も学内にあるので、すぐそばで牛を見ることができ、実際に直腸検査や人工授精、妊娠検査など大動物の臨床に関われます。また、小動物の手術や麻酔の方法なども学べます。病理学研究室に入っていますが、留学生が多く、英語で会話する機会に恵まれ、海外の獣医学生との交流も盛んです。病気は海外から来るものもあります。だからこそ、将来海外の獣医師と連携できる技術と知識のある獣医師を目指したいです。



Admission Policy 入学者受入方針 -求める学生像-

獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。

●大学での学修の基盤となる幅広い知識や理科、数学、語学に関する基礎学力を持ち、自然科学に対する幅広い興味や関心を有し、ヒトと動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識の修得に対して主体的に取り組むことができる人材

Message



ウイルス？細菌？動物？ヒト？本当の感染症って、どうなっているの？

獣医微生物学研究室 教授 岡林環樹
Tamaki Okabayashi

獣医微生物学研究室と聞くと「動物に感染する微生物の研究」という印象を持たれるかと思います。当研究室でも牛の風邪が、ウイルスと細菌の相互関係により重症化する仕組みを明らかにする研究に取り組んでいます。でも、ヒトの感染症の研究にも取り組んでいるのです。ヒトの感染症の多くは動物が関連していることが分かっているからです。このように「ウイルスと細菌」「ヒトと動物」という垣根を超えた新しい取り組みが「本当の感染症」の理解、それに基づく対策に繋がると考えています。

獣医学科では、畜産県宮崎の地の利を活かして産業動物を対象とした、基礎から臨床、そして防疫対策までを順序立てて習得できる実践教育にも取り組んでいます。獣医学が関わる幅広い分野を見渡せる「広い視野」を持った若い力を期待しています。



「宮崎で学ぶ実践教育 -Miyazaki+(プラス)連携教育で獣医師の育成-」

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが制定され、わが国の獣医学教育が大きく変わりつつあります。その中で宮崎大学が培ってきた獣医師育成の土台は変わることなく、実践的な教育を主体とした、自主的に学ぶ素地を身に付けた学生を育むことです。附属動物病院での診療に参加し症例から学ぶ臨床教育(昨年度はイルカのCT検査や手術まで!)や人獣共通感染症教育・研究プロジェクトを軸にした感染症/防疫に関するユニークな教育、基礎～応用に段階的に進む充実したカリキュラム・マップ、南九州に根ざした“触れる”産業動物教育、など



小動物臨床教育風景 (附属動物病院における伴侶動物臨床実習)



イルカCTの撮影風景(イルカ生体でのCT検査の様子)

豊富な教育コンテンツを有する宮崎大学で獣医師への一步を踏み出してみませんか。

また、東京大学、大阪府立大学との連携教育により講師派遣および遠隔講義を実施しており、これまでに感染症学、薬理学、臨床などの各分野で強みのある専門教育を相互に提供しています。この連携教育での講義は都市型と地方型の異なる問題解決能力を学び、それぞれに還元する有意義な教育材料となっています。

■卒業後の主な進路

伴侶動物の臨床(イヌ、ネコなどの獣医師)、産業動物の臨床(ウシ、ブタなどの獣医師)、医薬品会社(営業職、研究職など)、飼料会社、公務員(公衆衛生など)、大学院進学 他

※多くの場合、獣医師免許を取得することを条件に、面接などの採用試験を受験し、採用の可否が決定されます。

■取得可能な免許、資格

- 獣医師(国家試験受験資格)※1
- 学芸員※2
- 食品衛生管理者※3
- 食品衛生監視員※3

※1 所定科目の単位を取得すると、獣医師国家試験の受験資格を得ることができます。

※2 所定の単位を修得し、申請すると「学芸員に関する科目の単位修得証明書」が交付されます。

※3 卒業までに所定の単位を修得する必要があります。卒業後の勤務先で資格取得が必要となった場合に手続きを行います。